



～タイトル「玉燈」によせて～

「玉」は立派なものに磨きあげる、「燈」は教え、照らすを表し、「子どもへの愛育」と「情熱に満ち溢れる教師道」をイメージしています。また、「玉燈」は、郷土の先人 國友一貫斎の代表的発明品としても知られています。

「生涯1年生」

教育長室には、一燈園の石川洋さんが書かれたカレンダーが掲示されています。4月の言葉は、「生涯1年生 一年生の挨拶、一年生の笑顔、一年生の元気、一年生の感動」というものでした。教育界に身を置く者として、心が引き締まる言葉です。

昨年、市内の保育園から年長さんがクリスマスプレゼントを持って教育長室を訪れ、たくさんお話しをしてくださいました。「小学校に入ったら何を頑張りたいですか？」との問いに、「宿題を頑張りたい」、「野球」と口々に抱負を語ってくれました。その前向きな言葉は、小1プロブレムが気になっていた私にとって、とても頼もしく感じました。おそらく全国の1年生は、こういった夢や目標をみんな持っているのでしょうか。

それではなぜ、「小1プロブレム」という言葉が生まれたのでしょうか。これについては、子どもの資質というよりも構造的な問題があるのではないかと考えています。そこにメスを入れたのが本市の園小接続プログラムです。昨年度、モデル校では、入学後、生活の時間を利用して保育のような内容を実践しました。報告によると、例年より不適応を起こす子どもが少なかったと聞いています。また、授業参観では、落ち着いた雰囲気の中で、話し合いを通してよく学んでいる姿を見ることができました。

このように、子どもが持つ本来のエネルギーを安心して発揮させる環境構成が大事です。1年生だからという「しつけ」や上級生からのお世話など、これまでの考え方や指導方法の見直しが必要ではないでしょうか。本市では、じっとしていられずに教室を離れたり、時には暴力を振るったりする子どもが多くなってきました。令和6年度には、小学校の暴力事案が前年度の約3倍で300件を超え、かつ低年齢化しています。この事実を見て、従来型の学級経営を見直す時期

長浜市教育委員会 教育長 織田 恭淳



が来ていると考えます。各地域において、接続時の状況や現状を分析していただき、教育センターや県教委の研究を参考にした園小接続カリキュラムの実践とさらなる研究を望みます。

また、石川洋さんの言葉は、私たちの心にも深く響きます。私たちの身体は約60兆個の細胞で構成されており、毎日1～2%の細胞が入れ替わっていると言われています。単純に計算すると、50日～100日で完全に新しい自分に生まれ変わっていることとなります。見た目はさほど変わらずとも、内部では新陳代謝によって大きく変化しており、このことを青山学院大学教授の福岡伸一博士は「動的平衡」と呼んでいます。

これは、心の持ち方や考え方にも当てはまります。昨日より今日、今日より明日と、何歳になっても新しい自分として成長していると考えれば、自然と挑戦する勇氣ややる気が湧いてくるものです。変化を恐れ、前例踏襲や例年通りのやり方という考え方にとらわれては、「動的平衡」を保てず、世の中から取り残される可能性があります。そういう意味で、石川洋さんは「生涯1年生」という言葉が使われたのではないのでしょうか。

そして、それを私たち教職員に当てはめれば、何歳になっても学び続ける教師として、自己をアップデートしていくことにつながります。教育センターでは、今年度も授業づくりやICT、特別支援など多数の研修を用意しています。自分の長所短所を把握し、次の日からの実践を見据えて受講してください。先生方のそうした主体的に学ぶ姿勢は、子どもたちの良きロールモデルにもなると考えています。今年も皆様のご健闘をお祈りいたします。

「真の学力」を身につけた子どもの育成



資料②-2 令和7年度 長浜市教育センター研修体系図

滋賀県教員の キャリアステージ	第Ⅰステージ 実践力形成期	第Ⅱステージ 発展期	深化期	第Ⅲステージ 円熟期
県指定研修	確かな学力の向上につながる授業力、共通的に求められる資質・能力を養う □若手教職員研修 (初任者・2年次・3年次研修)	教員としての専門性や指導力を高め、推進役となるリーダーとしての資質・能力を養う □6年次(G-OJT)研修 □中堅教諭等資質向上研修 □特別支援学級新任担任研修 □通級指導教室新任担任研修 □子どもが主体となる授業づくり研修 □校内研究主任パワーアップ研修	教職員としての専門性や実践的指導力をさらに高め、職務に応じたりしき・技能を身につけ、職務遂行力を高める □ミドルリーダー研修 □主幹教諭研修 □主任事務主査研修	豊富な経験と継続的な自己研鑽により優れた教育実践を有し、学校経営能力・校務運営能力を高める □マネジメント研修 □小学校教科担任パワーアップ研修 など

長浜市 指定研修	子どもが主体的に遊びたくなる保育・自ら学ぼうとする授業に求められる資質・能力を身につける 最活スタイル 授業改善研修(小学校)7月25日(金) 最活スタイル 授業改善研修(中学校)8月22日(金) 長浜市教育研究発表大会 2月10日(火)
-------------	---

授業や キャリア教育に関する 研修	授業の質・教科指導力を高める 組織対応力を高める 専門分野の指導力を高める 生徒指導力・危機管理能力を高める 自己の資質・能力を高める	授業改善(英語・特別支援など)・学級経営研修・道徳教育 最活スタイル 校内研修(公開授業の参観) 35校・ 園小接続研修(参観、研修会等) ICT活用研修・生徒指導研修・特別支援(進路選択)・学校事務研修・運動あそび講座・長浜市フィールドワーク・絵本読み聞かせ講座 など 集合研修・ワークショップ・オンライン研修・オンデマンド研修 など	学校組織マネジメント研修
-------------------------	---	---	---------------------

アウトリーチ

【参考資料】 滋賀県教員のキャリアステージにおける資質向上の指標(滋賀県教育委員会) 2025

学校支援
研修

養護教諭個別支援事業(1, 2年次の養護教諭対象)



教諭



養護教諭



栄養教諭



管理職

教育センター 研究事業・教育奨励事業



研究1年次（未定）

テーマが決定しましたら案内します。ぜひご協力をお願いします。



（例）令和5年度・6年度
園小接続期カリキュラム
実践研究

～園小教職員のつながりを深め
子どもの豊かな学びを未来に
つなぐ～



研究2年次 授業改善研究



授業改善により、学習の質を一層高めていくことで、児童生徒が生涯にわたって能動的に学び続ける力を育てる

2年次（令和7年度）
自分の考えを表現する力を
高める国語科の授業づくり



長浜市教育賞



保育・教育現場での日々の教育活動をまとめ、個々の指導力や組織力の向上を目指す

学校・園実践部門
（個人・グループ）
個人実践部門
ユース部門

R6年度 応募総数33本

【昨年度の研究・研修の様子】



学ぶことを楽しみ、喜び、深め、広げていこう

研究・研修室長 野村 由紀子

「学びを楽しむ」、それは私たちが子どもたちに願う姿そのものです。だからこそ、教師自身が学びの喜びを実感することが何よりも大切です。研修には多くの学びがあります。私たちは研修を通して、新たな知識や技術を身につけ、自分自身を振り返り、次なる挑戦への意欲を育むことができます。時には課題に向き合い、考え込むこともあるかもしれませんが、しかし、その一つひとつの学びが、教師としての深みを増し、教育の質を高めていきます。教師のそんな学びを楽しむ姿勢は、子どもたちにとってロールモデルとなるはずですよ。

今年度も研究事業では、研究協力校・協力員を募り、2年間の継続的な研究に取り組めます。また、昨年度から新たにスタートした教育奨励事業も、さらに推進していきます。これらすべての取組は、長浜の子どもたちの未来につながります。

教育センターでは、これからも学ぶことを楽しみ、喜び、深め、広げていけるような研究・研修を目指します。ぜひ、多くの学びと成長を分かち合いましょう。



登校支援グループ

こどもサポートルーム なないろ

★色々な理由で登校していない、またはたまにしか登校していない子どもたちを対象にした教室です。軽運動やボードゲーム、個々の力に応じた学習などを通して、社会生活や学校生活に適應する力が身につくよう活動や相談を行います。

市内6か所に教室を設置⇒『大地の家』（浅井分庁舎）、『あざい』（浅井体育館横）

『ジョイ』（高月分庁舎）、『みらい』（湖北分庁舎）

4月末現在、小学生5名、中学生
17名が通室しています。

『ほっと』（木之本スティックホール内）、『ひまわり』（朝日町・眞行寺内）



なないろ紹介動画



体験なないろDAY事業

★気軽にこどもサポートルームを体験できる機会として、年3回『あざい』教室を自由開放します。
今年度は、6月・10月・2月を予定しています。詳細は、きずなネット等でお知らせします。

発達支援グループ

発達サポート事業

★視機能や体の使い方に課題がみられる児童に対し、専門的な立場から年間を通して指導方法等の
助言や早期支援を行います。本年度は、小学校18校を巡回させていただきます。

講師 高橋絵理子 氏（オプトメトリスト…視機能・目の使い方の専門家）

中瀬 弘士 氏（作業療法士……体全般の使い方の専門家）

ひらがなの読み書きプログラム（市内全小学1年生を対象に実施）

★プログラムに基づいた支援についてセンターも協力させていただきます。

目的

- ・ひらがな清音の確実な習得をめざし、その後の様々な学習上のつまずきに軽減を図る。
- ・発達上の課題を早期に発見し、個に応じた早期支援につなげる。

カウンセリング事業

★カウンセリングの必要性を感じたときには、ご連絡ください。

カウンセラー 田中 泉（巡回カウンセラー……配置校5校に加えて対応可）

高田裕子（センターカウンセラー…浅井分庁舎2階にて）

「お子さまの成長を願って」

教育相談室長 天野 真知子

子どもの成長過程には、学習のつまずき、友人関係の悩み、進路の不安など、さまざまな課題がつきものです。教育相談室では、お子さま一人ひとりが安心して毎日を過ごせるように、学校での様子や、ご家庭での状況を共有しながら、よりよい支援の方法を一緒に考えていきます。

また、「こどもサポートルームなないろ」では、学習や活動を行うだけでなく、子どもの話にじっくり耳を傾け、気持ちを整理したり、問題を乗り越える方法を一緒に考えたりしています。「自分の気持ちを話してもいい」「誰かが理解してくれる」安心できる場となるよう努めています。

お子さまのちょっとした変化や不安を感じたとき、どうぞお気軽にご相談ください。

ごあいさつ



失敗を恐れず楽しみながら

所長 杉本 義明

各学校園において、本市教育の充実のため日々熱意溢れるお取り組みいただいておりますことに、深く敬意を表します。

ノッティンガム大学教授のクリストファー・デーはその著書の中で「よき教師は、単に問題なく機能している機械ではない。教師は生徒とつながる感情的で情熱的な存在であり、喜びや創造性、挑戦心や楽しみをもってその仕事や授業を行う存在である」と述べています。これこそが『学び続ける教師』であり、失敗を恐れずに楽しみながら自らを進化させていく存在であると思います。

そして、そのような教師が育つためには、共通の課題について協働しながら考え合い学び合う同僚の存在や組織が必要です。教師同士がお互いの良さを認め発揮し、自己効力感を高め合えるそんな学校・園をつくりたいものです。

教育センターはそんな学校・園の先生方の主体的な学びのための研究・研修事業を進め、児童生徒とその保護者や教職員のための教育相談室を開設しています。各学校園、先生方のよき「伴走者」として、全力で応援いたします。センターの機能を大いにご活用いただきますよう、よろしくお願いいたします。

長浜市教育センタースタッフ

所長

杉本 義明

教育相談室

室 長

天野真知子

発達支援グループ

主 幹 清水としみ
相談員 岸 明宏
心理判定員 伊吹 秀世
心理判定員 森川 直美
心理判定員 川瀬 久栄

登校支援グループ

主 幹 関 あゆみ
相談員・指導員 矢守 慶光
相談員・指導員 宮野 武史
指導員 梶浦 恵子
指導員 後藤よしみ
指導員 西堀 愛
指導員 藤本和歌子
指導員 大川 彩音

市カウンセラー

巡回カウンセラー 田中 泉
センターカウンセラー 高田 裕子

研究・研修室

室 長 野村由紀子
主 幹（幼児課兼務） 桐畑 良美
研究員 吉田 教人
指導力向上学校指導員《養護教諭》 中山 秀子

外国人子どもサポート室

室 長（研究・研修室長兼務）
主任指導員（ポルトガル語と兼務）
ポルトガル語(指導員)
ポルトガル語(支援員)
サポート支援員
(スペイン語、タガログ語、ベトナム語、中国語通訳)
初期指導員